

## 設置（変更）許可申請書別紙

### 1. 廃棄物処理施設の構造及び設備

#### 施設名称及び施設の主要な設備の型式、構造、処理能力

施設・設備・装置・機器名称	型式・構造	能力、容量等	数量	
中核設備	焼却炉	ロータリーキルン	100 t/日	1
	中核設備 破碎施設の場合は、破碎機 脱水施設の場合は、脱水機			
各処理工程ごとに分類して記載				
中核設備以外	・受入設備			
	焼却物ピット	地下ピット	100 m <sup>3</sup>	1
	廃油タンク	二重殻タンク	160 m <sup>3</sup>	2
	・供給設備			
	投入ホッパ	鋼板溶接型	3×3 m	1
	給じん装置	油圧プッシャー式	5 t/h	1
	廃油吹き込みポンプ	ギアポンプ	40 m <sup>3</sup> /日	2
	・ガス冷却設備			
	ボイラ	自然循環式	5 Pa	1
	・排ガス処理設備			
	減温塔		5000Nm <sup>3</sup> /h	1
	バグフィルタ	ろ過式集塵機	5000Nm <sup>3</sup> /h	2
	・通風設備			
	押込送風機	渦巻きファン	1000Nm <sup>3</sup> /h	1
	誘引送風機	ターボブロア	1000Nm <sup>3</sup> /h	1
	・灰出し設備			
	燃え殻搬送コンベア	スクリューコンベア	40 t/h	1
	飛灰搬送コンベア	ベルトコンベア	40 t/h	1
・処理後物貯留設備				
燃え殻ピット	地下ピット	100 m <sup>3</sup>	1	
飛灰ピット	地下ピット	100 m <sup>3</sup>	1	

※設備、装置、機器は処理工程ごとに分類して記載する。

2. 処理に伴って生ずる排ガス及び排水

(1) 排ガス

処 理 方 法	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     処理に伴い排ガスが生ずる場合は以下の項目について記載してください。                 </div>	
	ボイラで熱回収後、減温塔で水噴霧により減温する。その後消石灰と活性炭により有毒成分を除去後、バグフィルタで排ガス中の飛灰を処理方法除去し、脱硝装置で脱硝後に煙突から排出する。	
排ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	5,000	
煙突の数	1	
煙突の設置位置	施設配置図1のとおり	
煙突の高さ (m)	15m	

(2) 排水

処 理 方 法	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     処理に伴い排水が生ずる場合は以下の項目について記載してください。                 </div>	
	焼却炉からの排水を、自社排水処理設備に送液し、凝集処理した後、放流槽で雨水系統排水と合流しA運河に放流する。	
排水量 (m <sup>3</sup> /日)	1,000	
放流口の数	1	
放流口の位置	施設配置図2のとおり	
放流先	〇〇運河	

3. 設計計算上達成することができる生活環境への負荷に関する数値

(1) 大気関係

地点	排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	排ガス温度 (°C)	大気汚染物質				
			SPM (mg/Nm <sup>3</sup> )	SO <sub>x</sub> (ppm)	NO <sub>x</sub> (ppm)	HCl (mg/Nm <sup>3</sup> )	ダイオキシン類 (ng/Nm <sup>3</sup> )
煙突出口	5,000		0.02	10			
大気汚染物質							
水銀 (μg/Nm <sup>3</sup> )	CO (ppm)						

設定した項目に  
数値を記載

(2) 水質関係

地点	排水量 (m <sup>3</sup> /日)	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	その他項目		

(3) 騒音関係

地点	騒音レベル(dB)

(4) 振動関係

地点	振動レベル(dB)

(5) 臭気関係

地点	臭気指数	臭気物質				
		アンモニア (ppm)				
臭気物質						

4. 周辺地域の生活環境の保全のために達成することとした数値

(1) 大気関係

地点	排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	排ガス温度 (°C)	大気汚染物質				
			SPM (mg/Nm <sup>3</sup> )	SO <sub>x</sub> (ppm)	NO <sub>x</sub> (ppm)	HCl (mg/Nm <sup>3</sup> )	ダイオキシン類 (ng/Nm <sup>3</sup> )
敷地境界			0.02	10			
大気汚染物質							
水銀 (μg/Nm <sup>3</sup> )							

設定した項目に  
数値を記載

(2) 水質関係

地点	排水量 (m <sup>3</sup> /日)	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	その他項目		

(3) 騒音関係

地点	騒音レベル(dB)

(4) 振動関係

地点	振動レベル(dB)

(5) 臭気関係

地点	臭気指数	臭気物質				
		アンモニア (ppm)				
臭気物質						





4 処理する廃棄物の性状(脱水・破碎施設等)

処理する廃棄物の種類及び最大処理量・廃棄物の性状等

施設の種類のごとに記載する	廃棄物の種類	最大処理量	処理する廃棄物の性状等
	脱水施設の例		
	汚泥	10 m <sup>3</sup> /日	SS濃度5%
	破碎施設の例		
	がれき類	50 t/日	
	木くず	20 t/日	
上記廃棄物を混合処理する場合	廃プラスチック類	10 t/日	硬質系
	【上記混合物】		
	がれき類、木くず、廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ガラスくず、金属くずの混合廃棄物	30 t/日	建設系廃棄物

※廃棄物の種類は、政令第7条施設の区分ごとに記入する。

5 処理後物の搬出計画

搬出廃棄物の種類及び最大発生量・性状・処分方法等(処理残渣物を含む)

廃棄物の種類	最大発生量	性状等	処分方法	
			処分業者	処分方法
がれき類	10 t/日	40mm以下	A株式会社	売却
木くず、廃プラスチック類	10 t/日	RPF原料	B株式会社	焼却





6 設計計算の概要 (脱水・破碎施設等)

設計計算書から抜粋して記載してください。

設計計算の概要

施設の種類	廃プラスチック類の破碎施設
処理方式	二軸方式
1日の稼働時間	12時間
稼働方法	<input checked="" type="checkbox"/> 連続処理 <input type="checkbox"/> バッチ処理 <input type="checkbox"/> その他 (    )
比重の算定根拠	廃プラスチック：0.3 処理する廃棄物を実測し、最大値を算定
設計計算式の考え方	破碎刃の切削容積を算定し、その値に歯の切削容積による噛み込みを考慮した係数を掛ける計算式を採用する。
設計計算式	<b>【処理能力】</b> 処理能力 = $60 \times (A軸の切削容積 + B軸の切削容積) \times 噛み込み効率 \times 稼働時間$
設計計算式に用いた係数	噛み込み効率：0.8 歯の切削容積による噛み込みを考慮した係数
採用した係数の算出根拠	メ-カの実験値 (実験データは申請書第5章設計計算書参照) より算定
設計計算の結果	<b>【1日あたりの処理能力】</b> 処理能力 = $60 \times (1 + 1) \times 0.6 \times 12 = 864t/日$

6 設計計算の概要 (焼却施設)

設計計算書から抜粋して記載してください。

設計計算の概要

施設の種類	廃油、産業廃棄物の焼却施設
処理方式	ロータリーキルン方式
1日の稼働時間	24時間
稼働方法	<input checked="" type="checkbox"/> 連続処理 <input type="checkbox"/> バッチ処理 <input type="checkbox"/> その他 (            )
焼却対象物の熱量の算定根拠	廃油：3000(kcal/kg) 産業廃棄物：4000(kcal/kg) 実測値より算定 (実測データは申請書第5章設計計算書参照)
焼却炉許容熱負荷の算定根拠	熱負荷：100000kcal/h メーカーの経験値 (経験値の算定方法は申請書第5章設計計算書参照)
設計計算式の考え方	処理対象廃棄物が設置焼却炉で最大処理できる量
設計計算式	<b>【処理能力】</b> 処理能力(t/日) = 焼却炉の許容熱負荷 ÷ 処理対象物の熱量
設計計算式に用いた係数	なし
採用した係数の算出根拠	なし
設計計算の結果 <b>【1日あたりの処理能力】</b>	<b>【単焼能力】</b> 廃油 100000 ÷ 2500 = 40(t/日) 産業廃棄物 10000 ÷ 2500 = 40(t/日)  <b>【混焼能力】</b> 100000 ÷ 2500 = 40(t/日)

## 7 環境対策

### (1) 飛散・流出防止対策の概要

構造上の対策	維持管理上の対策
<p>施設を建屋内に設置する。 施設はすべて密閉構造とする。 燃え殻、ばいじんの貯留場所に散水設備を設置する。</p>	<p>受入時間以外はシャッターを常時閉にする。 燃え殻、ばいじんが飛散しないよう適宜散水を行う。 (2)</p>

### (2) 騒音対策の概要

構造上の対策	維持管理上の対策
<p>機器は建屋内設置をし、ブロー類等は低騒音型機器を選定する。また、敷地境界には防音壁を設置する。</p>	<p>受入時間以外はシャッターを常時閉にする。 年に1度敷地境界上で騒音測定を行い、周辺の生活環境を損なっていないか確認する。</p>

### (3) 振動対策の概要

構造上の対策	維持管理上の対策
<p>ブロー類等振動を発生する機器は建屋内設置をするが、中でも著しい振動を発生する機器については、防振ゴムを設置する。</p>	<p>受入時間以外はシャッターを常時閉にする。 年に1度敷地境界上で騒音測定を行い、周辺の生活環境を損なっていないか確認する。</p>

### (4) 防臭対策の概要

構造上の対策	維持管理上の対策
<p>建屋内の空気を押込送風機で焼却炉の燃焼用空気に利用するため、建屋内は常時負圧に保たれ、外部に流出しない構造とする。</p>	<p>受入物については原則即日処理を行う計画であるが、処理が翌日にまたがる場合は受入設備に消臭剤を適宜散布する。</p>



9 環境影響調査結果

1 大気質

(1) 煙突排ガスによる影響

ア 長期平均予測濃度調査結果

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

調査項目	SO <sub>2</sub> (ppm)	NO <sub>2</sub> (ppm)	SPM (mg/Nm <sup>3</sup> )	ダイオキシン類 (ng/Nm <sup>3</sup> )	
現況濃度	2				
最大着地濃度	2.5				
予測濃度	3				
規制値	4				
その他必要な項目					
調査項目					
現況濃度					
最大着地濃度					
予測濃度					
規制値					

調査した項目のみ  
記載してください。

調査項目が他にある場合は記載してください。

※最大着地濃度とは、寄与濃度が最大となると予想される地点の濃度とする。  
 ※予測濃度は、現況濃度と煙突排ガスの最大濃度を合成した値とする。  
 ※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

イ 短期平均予測濃度調査結果

調査項目	SO <sub>2</sub> (ppm)	SPM (mg/Nm <sup>3</sup> )	HCl (mg/Nm <sup>3</sup> )		
最大着地濃度	5				
規制値	10				

調査項目が他にある場合は  
記載してください。

調査した項目のみ  
記載してください。

※最大着地濃度とは、寄与濃度が最大となると予想される地点の濃度とする。  
 ※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

(2) 廃棄物運搬車両による影響

調査地点

調査項目	NO <sub>2</sub> (ppm)				
現況濃度	3	調査項目が他にある場合は記載してください。			
車両最大濃度	4	調査した項目のみ 記載してください。			
予測濃度	5				
規制値	4~6 又はそれ以下				

※調査地点は、廃棄物運搬車両による影響が大きくなると想定される沿道の地点とする。

※予測濃度とは現況濃度と車両の影響による最大濃度を合成した値とする。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

2 水質

放流場所 A運河  
排水量 1000m<sup>3</sup>

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

調査項目	放流水濃度	現況値	規制値	地点別予測濃度				
				10m	20m	30m	40m	50m
SS(mg/l)	20	5	8	15	10	8	6	5
BOD(mg/l)								
COD(mg/l)								
T-P(mg/l)								
T-N(mg/l)								
調査項目が他にある場合は記載してください。								

※調査地点は、放流口から水質の濃度に一定以上の影響を及ぼすと想定される地点とする。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

3 騒音

(1) 施設の稼働による影響

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

調査地点	時間区分	現況値(dB)	施設騒音(dB)	予測値(dB)	規制値(dB)
東側	朝	65	55	67	75
	昼	65	55	67	75
	夕	65	55	67	75
	夜	60	55	62	65
	朝				
	昼				
	夕				
	夜				
	朝				
	昼				
	夕				
	夜				
	朝				
	昼				
	夕				
	夜				

各調査地点の調査結果を記載する。

※朝とは午前6時から午前8時、昼とは午前8時から午後6時まで、夕とは午後6時から午後11時、夜とは午後11時から午前6時までとする。

※調査地点は施設の騒音の影響が大きくなると想定される敷地境界上とする。

※現況値とは、施設の設置又は変更前の騒音値。

※施設騒音とは、施設の稼働により生じる騒音値。

※予測値とは、現況値と施設騒音を合成した値。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

(2) 廃棄物運搬車両による影響

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

調査地点	現況値(dB)	車両騒音(dB)	予測値(dB)	規制値(dB)
国道A号線	60	60	63	なし

※調査地点は、廃棄物運搬車両による影響が大きくなると想定される沿道の地点とする。

※現況値とは、施設の設置又は変更前の騒音値。

※車両騒音とは、施設の設置又は変更により増加する廃棄物運搬車両から生じる騒音値。

※予測値とは、現況値と車両騒音を合成した値。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

**4 振動**

**(1) 施設の稼働による影響**

調査地点	時間区分	現況値(dB)	施設振動(dB)	予測値(dB)	規制値(dB)
東側	昼	50	50	53	70
	夜	45	50	51	65
	昼				
	夜	各調査地点の調査結果を記載する。			
	昼				
	夜				
	昼				
	夜				

※昼とは午前8時から午後7時まで、夜とは午後7時から午前8時までとする。

※調査地点は施設の振動の影響が大きくなると想定される敷地境界上とする。

※現況値とは、施設の設置又は変更前の振動値。

※施設振動とは、施設の稼働により生じる振動値。

※予測値とは、現況値と施設振動を合成した値。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

**(2) 廃棄物運搬車両による影響**

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

調査地点	現況値(dB)	車両振動(dB)	予測値(dB)	規制値(dB)
国道A号線	50	50	52	なし

※調査地点は、廃棄物運搬車両による影響が大きくなると想定される沿道の地点とする。

※現況値とは、施設の設置又は変更前の振動値。

※車両振動とは、施設の設置又は変更により増加する廃棄物運搬車両から生じる振動値。

※予測値とは、現況値と車両振動を合成した値。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。



調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

**5 悪臭**

**(1) 煙突排ガスによる影響**

調査地点		臭気指数	特定悪臭物質濃度			
			アンモニア (mg/l)	調査項目が他にある場合は記載してください。		
地点1 敷地東側 (風上側)	現況値	10	0.1			
	施設稼動値	/	0.1	調査した項目のみ 記載してください。		
	予測値	供用時 測定	0.2			
地点2 敷地西側 (風下側)	現況値	11	0.2			
	施設稼動値	/	0.2			
	予測値	供用時 測定	0.3			
地点3	現況値					
	施設稼動値					
	予測値					
規制値	/		1			

- ※調査地点は、悪臭の影響が大きくなると想定される敷地境界上とする。
- ※施設稼動値とは、施設の設置又は変更により発生する特定悪臭物質に係る値とする。
- ※予測値とは、現況値と施設稼動値の合成値とする。
- ※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。

調査を行った場合記載してください。  
調査しない場合は記載不要です。

(2) 施設からの悪臭の漏洩による影響

調査地点		臭気指数	特定悪臭物質濃度				
			アンモニア (mg/l)				
地点1 地点A	現況値	5	0.1				
	施設稼動値	類似施設 1	0.1				
	予測値	5.5	0.2				
地点2	現況値						
	施設稼動値						
	予測値						
地点3	現況値						
	施設稼動値						
	予測値						
規制値			1				

※調査地点は、影響が大きくなると想定される周辺人家等の位置とする。

※施設稼動値とは、施設の設置又は変更により発生する特定悪臭物質に係る値とする。

※予測値とは、現況値と施設稼動値の合成値とする。

※規制値の欄は環境基準値や環境目標値等が設定されている場合は記載する。